

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年1月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700116
法人名	アール・エイチカンパニー株式会社
事業所名	高齢者グループホームゆうとみい
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本2547番地1 (電話) 0994-28-1755
自己評価作成日	令和4年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点
 ○市民救命士のいる事業所の再取得
 ・大隅肝属地区消防組合実施の「普通救命講習」受講
 ○緊急時の体制強化(利用者の安全確保に向けて、系列の医療機関との24時間連携体制の強化に努めている)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・母体である医療機関との24時間オンコール体制の充実で利用者・家族にとって医療面での安心感に繋がっている。
 ・AED設置、市民救命士取得、普通救命講習を受講する等、地域住民にとって頼られる施設となっている。
 ・地域防災訓練への参加、事業所防災訓練への地域放送活用と地域住民の参加など、地域との協力体制が整っている。
 ・認知症ケア専門士が数名在籍し、利用者の家族や近隣住民の相談窓口として機能している。
 ・代表者は働きやすい職場環境づくりに努め、会食や旅行で親睦を図り、職員との良好な関係が築かれている。職員間のコミュニケーションも良好で離職者が少なく永年勤続の職員も多い。

ゆうユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所の理念は動線にいつでもみえるように掲げているが読むとゆうのではなく職員全てが共有しながら実践につなげている。	理念はパンフレットや重要事項説明書に記載し、玄関やホールなど事業所内に掲示し朝の申し送りで唱和している。会議等で共有し、理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近ではコロナの流行により地域との交流がなかなかできていない人との面会を止めているので早く日常に戻りたい。	自治会に加入、2ヶ月毎の会議は現在は自粛している。自治会長が近隣に居住の為、情報を共有している。地域消防訓練への参加、近所の人々も協力的で避難訓練などにも参加している。米や野菜など日常的な差し入れがある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	当施設では認知症専門士が3名いるので地域の方の要望に応じて支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族からの意見や役場からの報告などをとりいれながらサービスにどのように生かせるのか考えている。	会議はコロナの影響で現在は文書での開催となっている。面会については窓越しでの面会を行っているが、今後、カメラを利用して様子が見えるような体制を検討している。近所のコスモス園を再開し復活していただくの提案もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	町の担当者が変わることで日ごころからの連携で苦労もあるがサービスへの取り組みは出来るだけ協力関係を密にしながら支援に取り組んでいる。	行政とは出向いたりメールや電話のやり取りで連携を取っている。運営推進会議資料など事業所の実情や取り組みなど積極的に伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	すべての職員が身体拘束をしないケアに実践をもって理解しており玄関のかぎや他の入り口の出入りも自由になっている。車椅子の自駆動の方は現在おられない。	指針・マニュアルを基に、母体医療機関と合同で3ヶ月毎に委員会を開催して事例を出し意識を高めている。玄関の昼間の施錠はしていない。スピーチロックも含めて身体拘束ゼロを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように全職員が虐待防止の研修を受け、理解している。しかし、いつ虐待が起こるかはわからないので、日頃から見過ごしがないように注意をはらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っており個人の必要性に応じて活用できるよう支援していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結、解約時利用者や家族の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い相手に伝わるように納得いくよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者そして家族からの要望・意見が職員を通して運営者側に届きそれらが運営に反映されるように努めている。</p>	<p>利用者からは日常会話や入浴時にできるだけ話を聞き、希望や要望を汲み取るよう心がけている。家族からは面会時や行事に合わせて家族会を開催、意見や要望を聞いている。電話で受診報告の時など把握した意見や要望は会議等で話し合い、運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の意見は2か月に1回の食事会の時に聞くようにしているが最近コロナで食事会での意見を聞く機会が少なく職場内が増えている。</p>	<p>永年勤続の職員がほとんどであり、コミュニケーションが図られている。会議や日常勤務の中で相談や意見・提案があり申し送りノートで共有し運営に反映している。以前より2ヶ月毎の食事会、2年毎の旅行が職員の楽しみであったが、コロナの影響で自粛している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、職員の能力・労働時間・勤務状況各自の向上心などを考慮して給与水準を決めて働きやすい職場作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は一人ひとりの能力やケアの力量を把握しそれに見合う研修を受ける機会を確保しているがコロナの期間は思うようにできていない。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>最近同業者との交流会も出来ていないお互い面会を止めているためコロナが近くの施設に出ているため自分の施設のみでサービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用開始の段階で本人の困りごとや家族の要望などに耳を傾け安心確保に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用開始の段階で家族の不安ごとや本人の不安ごと等当施設と利用者あるいは家族との関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービスの開始時利用者・家族がその時何が必要かサービスの内容があっているかその対応を見極め支援をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は家族と思い介護するのではなく暮らしを楽しむ日々を送ってお互いともに生活していく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と職員はともに支えあい家族との絆を切らさぬように関係を密に築いていくよう支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人が大切にしてきたなじみのものや人や場所など関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。</p>	<p>医療機関受診後のミニドライブや馴染みの店での買い物、家族の協力を得て墓参りや神社参拝など馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。家族へは毎月、写真を送付している。面会が窓越し対応であり今後、カメラを活用して様子が見られるような体制を検討中である。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同志一人一人が孤立しないようにかかわりを把握し各自が支えあえる環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても家族だった方がまた入られる方も多いある程度の満足が得られてるか相談などのつながりなのかな。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各自一人ひとりの思いをくみ取るのはなかなか難しいが出来るだけ把握に努め困難な人にはどうしたら本人に寄り添えるか検討していきたい。	生活歴からの推測、日常の関わりの中で会話や表情、仕草から思いを汲み取るよう心がけている。家族からの情報も合わせて申し送りや会議で情報を共有し、本人に寄り添ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やなじみの人々、生活環境、これまでのサービス利力であり、一人一人の把握は大きな力でありそのことに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は人それぞれに違う、その日の心身の状態に合わせて有する力等現状の把握を大事だと常に思ってる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症はチームワークが一番大事である、職員・家族・かかわる関係者等々すべてで同じケアづくりが必要なので現状に即した介護計画を立てて実施している。	本人や家族・職員・主治医の意見等を踏まえた介護計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリングと6ヶ月毎の見直し、必要時には随時、見直しを行い現状に即した介護計画となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・工夫や気づきを個別に記録しながらその情報を職員すべと共有しながら介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズは日々変わるので固定したサービスにとらわれずその時々状況に合わせて柔軟な支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各利用者の住んでいるところにより地域資源は様々であり事業所に得られる資源を出来るだけ活用し豊かな生活ができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医以外の科目は紹介状持参で家族と共に受診しているがかかりつけ医の看護師たちとは密に連絡を取り適切な医療を受けていただいている。	本人・家族の希望でかかりつけ医は母体医療機関となっている。週2回の訪問診療と定期受診や他科受診は職員が対応、24時間オンコール体制で連携が図られて適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は病院の看護師と連携をとって個人個人が正しい受診が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入退院する場合の相談あるいは病院関係者との密な情報交換が早い退院につながるよう関係作りに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者は入所時異変が起きたらすぐ病院入院を希望されるが時がたつと施設で看取りをしてくれと頼まれる方が増えてくる事務所で出来る事はかかりつけ医と共に本人が苦しまない穏やかな生活を支援することに努めている。</p>	<p>「重度化や終末期に向けた指針」を策定し、利用開始時に家族へ説明して同意を得ている。必要時にはその都度、家族との話し合いを持ち、事業所でできる事を確認しあいながらターミナルケアに取り組んでいる。ターミナルケアの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時の応急手当や初期対応には職員は訓練を受けており実践につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災時などの昼夜問わず地域の方々との連携を取り協力関係での避難を心掛けている。</p>	<p>火災や地震などの災害訓練を自主訓練と年2回、消防署立ち合いでの避難訓練を、消火器を使い実施している。備蓄は水・米・インスタント食品・レトルト食品・缶詰などがある。ヘルメットやガスコンロも備えている。訓練前に近所など訓練することを伝えている。マニュアルや連絡網を作成し訓練には地域住民の参加や地域放送の利用などの協力体制が整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の部屋は個室ではあるがおむつの方もいられるので個人の人格を尊重し言葉かけにもプライバシー保護を心掛けている。</p>	<p>マニュアルがあり、排泄や入浴介助・声かけなど、人格や誇り・プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。接遇に関する外部研修や内部研修も実施している。トイレのドアを閉めたり居室に入るときもノックをして了解をもらい入室している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思いや自己決定が出来るように職員は働きかけている</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>施設側の都合に合わせるのではなく各自一人一人の体調に合わせてその日その日を過ごしていただけるよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>できるだけ自分の手持ちの中でおしゃれが楽しめるよう支援して心が豊化になるのを心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はミキサー食の方もいるが混ぜることなく説明しながら食べてもらい季節によっては旬の野菜などをとりいれている。	調理専門の職員が食事形態に合わせた食事を提供している。行事食やおせち料理・七草がゆなど、季節に合わせて旬の野菜を取り入れた献立で食事が楽しくなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量栄養バランスなどを1日を通じて計算し一人一人の量にあった支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の清潔を保つため補助をしたり自分で出来る人は見守りを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄はその人の自立のため出来る限りトイレ誘導を進めている。嫌がる方もいるが快適さはオムツの何倍だとわかってほしい。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。自立に向けたさりげないトイレ誘導をして排泄の失敗が減少しおむつの使用量も少なくなっている。状況に応じた排泄支援でおむつ外しに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	年配になると腸の動きが悪くなり便秘の方が増える野菜や繊維質の物を増やし予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴はその日の体調に合わせて本人の希望に添えるように出来る限りの支援をしている。	入浴は基本週3回、希望や状況に応じて午前・午後と対応している。入浴中は音楽を流したり歌を歌ったりと入浴を楽しめるよう工夫している。拒否のある場合はタイミングや声かけの工夫、職員交代等で対応している。状況に応じて足浴やシャワー浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝したりテレビを見たり日々違うが各自一人一人自分の時間を好きに使い夜もそれぞれが自分流に眠りにつかれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬を把握しわかる人には説明し日々の変化をかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の役割ができる人が最近減ってきているが毎日本人の楽しみが増えるよう職員は食事や好きなおやつなど考えながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>最近ではコロナにより外出もままならないが近隣はすぐ近くの施設にもクラスターが発生しており未だ面会を止めたままである。早く収束してほしいと願うばかりである。</p>	<p>コロナの影響で外出の機会が少なくなっているが、医療機関受診の帰りなど事前に希望を聞いて意向通りの場所に行ったりしている。買い物やミニドライブ、近隣や敷地内散歩で気分転換を図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>何人かは個人でお金をお持ちだが外に出る機会がなく散髪の時など自分で払われたりする。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>最近自分で字を書きたがらない方が増えてきたが職員が代筆し名前だけ買い手。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間、食堂、浴室など共同の空間は利用者が混乱を招かないよういすなど落ち着いた色にし季節によって花を摘んだりにおいのあるきんもくせいなどで心に響くよう心掛けている。</p>	<p>ホールは広く窓も多く全体的に明るい。加湿器や空気洗浄機が置かれ、室温・湿度・換気などの空調管理に配慮し清潔な空間となっている。季節の飾り付けや季節の花が飾られ、大画面のテレビとゆっくりくつろげるソファがあり、居心地よく暮らしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれの共同空間には一人でテレビを見たり本を読んだり職員とカラオケしたり居眠りしたり自由に過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>最近では少なくなったが自分の家になっている方が多かった仏壇の管理までされていたり今は認知が進まれている方が増えて自分の管理が難しくなっている居心地がいいのが何よりで笑顔で過ごせるよう心掛けている。</p>	<p>居室にはベット・エアコン・タンスを施設の方で設置してあり、自分の家で使っていた寝具やぬいぐるみ・湯呑・茶碗などの使い慣れた品物が置かれ、家族の写真などが飾られている。本人にとって居心地よい空間となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分でできることをなくさぬように自立した毎日が送れるように支援しながら環境作りを考えている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない